

YUME NO HOIKUEN

# 夢の 保育園

赤ちゃんを知る。そして母になる。

入場無料

## 第二回母学会議

2017年 10月21日(土) 22日(日)

丸ビルホール

〒100-6307 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル7階

主催：東京藝術大学社会連携センター、  
東京藝術大学 COI 拠点  
文化外交・アートビジネスグループ

共催：アツリカ育児研究所

協賛：三菱地所株式会社  
株式会社アトム

伊東順二：総合プロデューサー  
東京藝術大学社会連携センター特任教授

大戸美也子：武蔵野大学名誉教授  
葛西康仁：アツリカ育児研究所  
クリエイティブディレクター

小泉英明：株式会社日立製作所名誉フェロー  
公益社団法人日本工学アカデミー上級副会長

仁志田博司：東京女子医科大学名誉教授  
宮廻正明：東京藝術大学大学院教授

新井晴み：女優



Aprica Childcare Institute

三菱地所



先着100名さまに小林 登著「母学」を進呈

大戸 美也子

1939年、北海道生まれ。お茶の水女子大学卒、同大学院修了。ペンシルベニア州立大学大学院幼児指導法専攻、M.Ed。武蔵野大学副学長、お茶の水女子大学アップリカ特設講座教授、日本保育学会副会長などを歴任。現在、武蔵野大学名誉教授。「わが国の幼児教育・保育と国際交流」(OMEF日本委員会)など著書多数。



葛西 康仁

1953年、大阪生まれ。上智大学卒。アップリカ育児研究所代表取締役社長。世界で初めて生まれた「父が子供を抱きしめる服ベルバ」でイタリア コンパッソ・ドーロ賞ファイナルミネット、ADIデザインインデックスに掲載される。マスメディア広告では2002年から5期連続で毎日広告デザイン賞。広告電通賞など受賞歴多数。2017年新「育児の原理」角川ソフィア文庫、クリエイティブディレクター兼編集者を務める。



小泉 英明

東京大学教養学部卒(理博)。現在、米国・中国・欧州など国内外の研究機関で、Boardや名誉教授を兼務。日立基礎研究所所長、日本分析化学会会長などを歴任。環境・医療分野で多くの新計測原理を創出し社会実装。米国R&D100賞(Oscars of Innovation)他受賞多数。編著書に「脳科学と芸術」他。



仁志田 博司

1942年生まれ。1968年慶応義塾大医学部卒。1969～74年米国(シカゴ大学・ジョンズホプキンス大学)で小児科学・新生児学。1974～84年北里大学小児科講師、1984～2008年東京女子医科大学教授・母子総合医療センター長、1984～2008年早稲田大学人間総合学部研究員(生命倫理)、2008年～東京女子医科大学名誉教授・北里大学客員教授・慈誠会病院名誉院長。



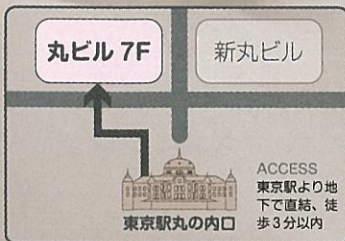
宮廻 正明

1951年島根県生まれ。日本画家、東京藝術大学大学院教授・社会連携センター長、日本美術院同人・理事、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団理事長。日本美術院展にて外務大臣賞、文部大臣賞、内閣総理大臣賞、日本美術院賞受賞。



新井 晴み

1977年NHK朝の連続テレビ小説「風見鶏」ヒロイン、エランドール新人賞受賞、産業カウンセラー、日本文芸家協会会員、2010年法政大学キャリアデザイン学部総代理卒業、1992～2000年イタリアと日本で暮らす。2006年福島県郡山市「いのちのでんわ」開設記念に一人芝居「エリカ」公演。2010年NHK「みんなのうた」「風がきれい」作詞。



一赤ちゃんとお母さんのための芸術体験

「夢の保育園」

一赤ちゃんとお母さんのための芸術

第二回母学会議のテーマは「夢の保育園」です。誰でも一度は入ってみたい絵本の世界。その中で「母学」の意味を考えていきます。

小林 登先生の「母学」は胎児から赤ちゃんたちの成長を段階的に観察し、それぞれの家庭の中で育児における健全な心身の成長を促すための心と体のスイッチの入れ方を合理的に解説しています。

つまり、単なる胎教論や育児論と違って目に見えない母子の相互作用を科学的に論理的に説明しながら、生きるとは、もしくは心の在り方とは、という哲学、そして、感動という生命のモチベーションの言及にまで達しているのです。その提言は芸術の存在意義をも問うものだと思います。なぜなら母子の目に見えない相互作用、それは心の伝達というものであり、それを私たちは自身の中で生誕成熟していくからです。「母学」は多くの人が、時間が経つにつれ忘れかける見えない絆を目に見える形でもう一度思い出させてくれます。そのような稀有な作業、そして存在が芸術と呼ぶべきものなのでしょうか。だからこそ芸術は創造的で本質的な社会のイノベーションの源泉になりうるのだと思います。素晴らしい母に誘う、それは芸術の新たな展開をも意味しています。その展開をぜひ体験していただきたいと私たちは思います。

第二回母学会議では東京藝術大学の若手作家たちによる赤ちゃんとお母さんのためのアートパフォーマンスを交えた盛りだくさんのプログラムを用意して、絵本の中に入っていきような世界を実現しています。私たちが提案する「夢の保育園」をお楽しみください。

イベントの流れ

10月21日(土)

12:30

主旨・出演者紹介

伊東順二(総合プロデューサー)



アートパフォーマンス  
住谷美帆(サクソフォン)

母学トーク

仁志田博司

「赤ちゃんの心と出会う  
-新生児科医が伝える「あたたかい心」の育て方」

葛西康仁

「母学」小林 登が母に伝えたいこと

新井晴み

「ピーターラビット」絵本の朗読

シナリオ朗読「エリカ」

新井晴み

アートナーサリーワークショップ  
Freyja Dean

Freyja Dean

1987年生まれ。ランカスター大学にて科学及び博物画の学位を取得後、ロンドンのセントラル・セントマーティン校美術科で芸術・科学の修士号取得。さらにケンブリッジ大学にて法医学復讐、オープン大学にて医療史を学ぶ。最近では、イギリス王立外科医科大学において外科研修医の実習用擬似身体部位を作成したほか、イギリスと現在居住中の東京を拠点にフリーランスでデザインプロジェクトや個展を行う。



10月22日(日)

11:00

アートナーサリーワークショップ

Freyja Dean

13:00

主旨・出演者紹介

伊東順二(総合プロデューサー)

アートパフォーマンス

瀧北榮山 (尺八)

パネルディスカッション

テーマ:「夢の保育園」

伊東順二、大戸美也子、葛西康仁、小泉英明、宮廻正明、新井晴み

母学トーク

小泉英明

「アインシュタインの逆オメガ

-脳の進化から教育を考える」

大戸美也子

「日本の幼児教育と保育について」

新井晴み

「ピーターラビット」絵本の朗読

宮廻正明

「お腹の中のノイズ」

SENJU LAB Kids

ワークショップ

http://gakuvo.jp/

katsudou2017/

yuruvo18/



総合プロデューサー  
伊東 順二

東京藝術大学特任教授。美術評論家。アート、音楽、建築、都市計画など分野を超えたプロデュースを多数手がける。1995年「ベニス・ビエンナーレ」日本館コミッション。2005年～13年富士山大学教授。08～12年「金屋町楽市」実行委員長。前長崎県美術館館長。パリ日本文化会館運営審議委員。富山市ガラス美術館名誉館長。



小林 登

東京大学名誉教授、国立小児病院名誉院長、「母学」著者。世界小児科学会会長を務めた小林はその著書「母学」で「乳幼児期はシナプスの形成が活発で、環境の影響を受けやすい。言葉を持たない赤ちゃんは五感の感覚器からの刺激を受けないと、その刺激を感じる神経細胞のネットワークシステムが作れない。ここに母子相互作用の必要性がある。」と説き、同時に「人間には感覚器を刺激する芸術が必要であることは言うまでもない。芸術は人間だけが持つ心を育てる感性の刺激である。」と説く。

